

4-2-1.JSP準備と実行

■ JSP準備と実行

はじめに

javaにはJSPという技術が存在します。

JSPには、JavaとHTMLのコードを一緒に記述することができます。

「画面のformから入力した値が適切か判定したい」や

「入力値を適切な値にフォーマットして出力したい」といった要件に対応する事が可能。

現場で目にする事も多い書き方なので、まずはJSPを使うための準備から始めましょう。

JSPを用いた開発の準備～プロジェクト～

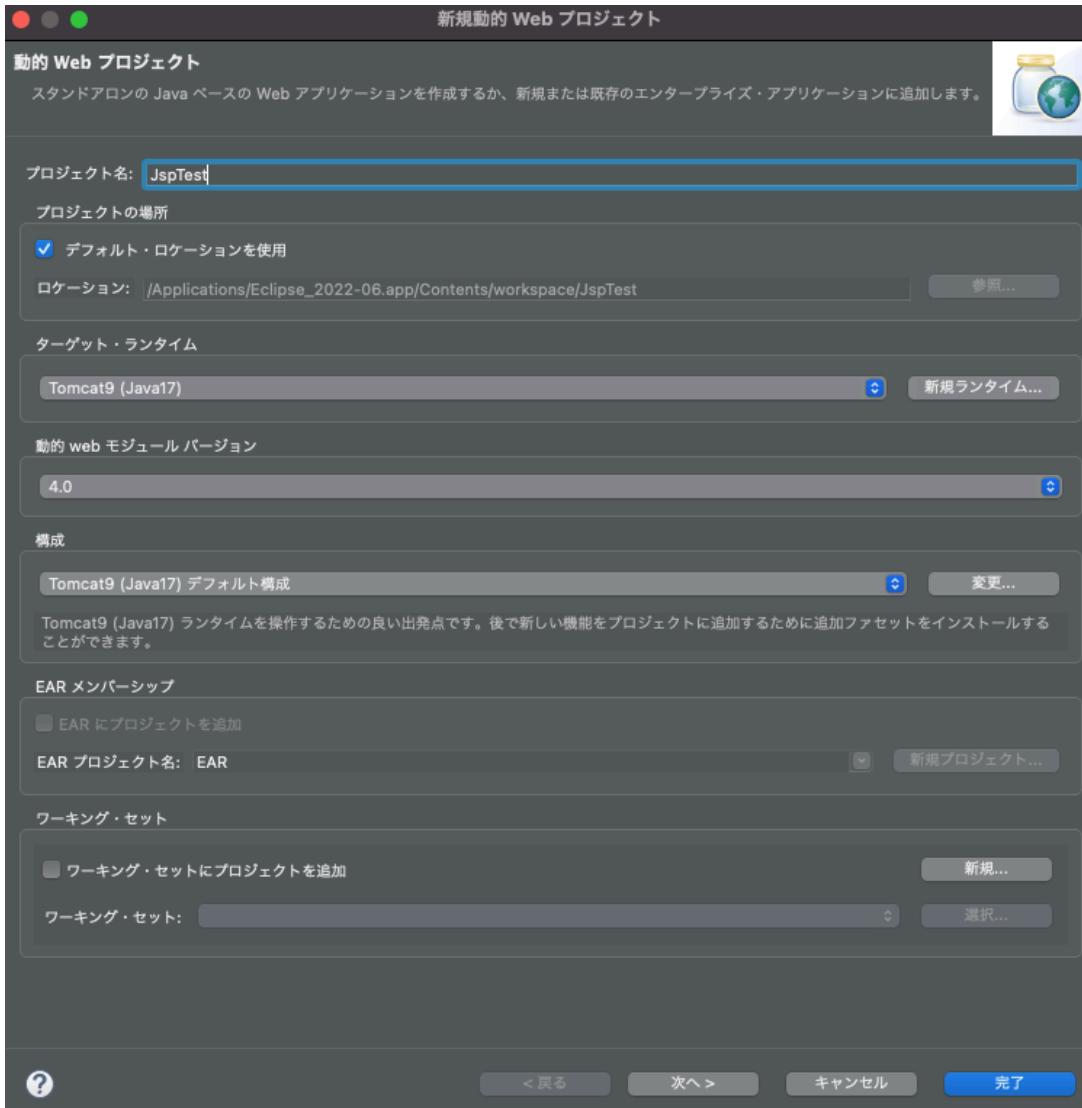
eclipseを用いてJSPを使用する準備をしていきます。

まずは下準備として、JSPを用いた開発に必要なプロジェクトを作成します。

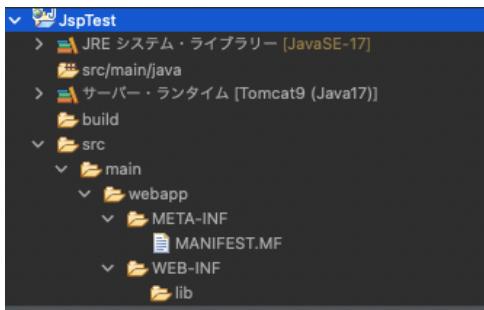
1: 「パッケージ・エクスプローラー」を右クリック→「新規」->「動的Webプロジェクト」を選択



2: 「プロジェクト名」を入力して「完了」をクリック



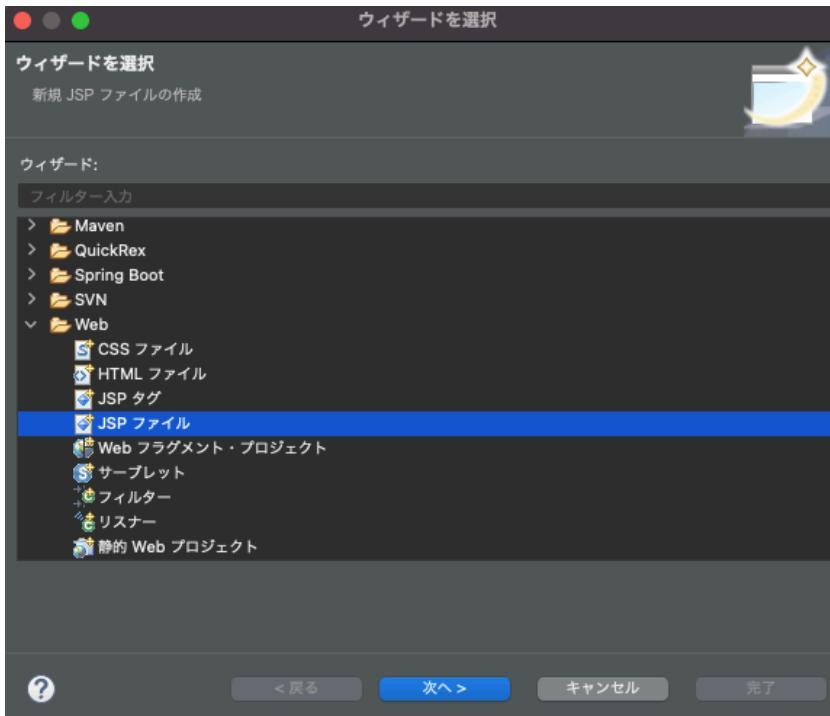
上記手順を踏むことで、JSPを用いた開発に必要なプロジェクトが作成されます。



JSPを用いた開発の準備～JSPファイル～

次に、作成したプロジェクトの中 **jspファイル** を作成します。

1: 「パッケージ・エクスプローラー」配下の「Webapp」フォルダを右クリック→「新規」>「JSPファイル」を作成して下さい。
jsp・HTML・CSS・imgといったフロント資材はこの「Webapp」フォルダ内へ配置していきます。



上記手順を踏むことで、「Webapp」内にJSPファイルが作成されます。

作成されたJSPファイルは下記のソースコードとなっています。

HTMLファイルと非常に似た記述となっているのが確認できますね。

```
<%@ page language="java" contentType="text/html; charset=UTF-8"
pageEncoding="UTF-8"%>
<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>Insert title here</title>
</head>
<body>
</body>
</html>
```

JSPの実行

では、実際に作成したJSPファイルを実行してみましょう。

実行に際して、先ほど作成されたJSPファイルを実行すると「Hello World!」が出力されるように
`<h1>タグを追記してあります。

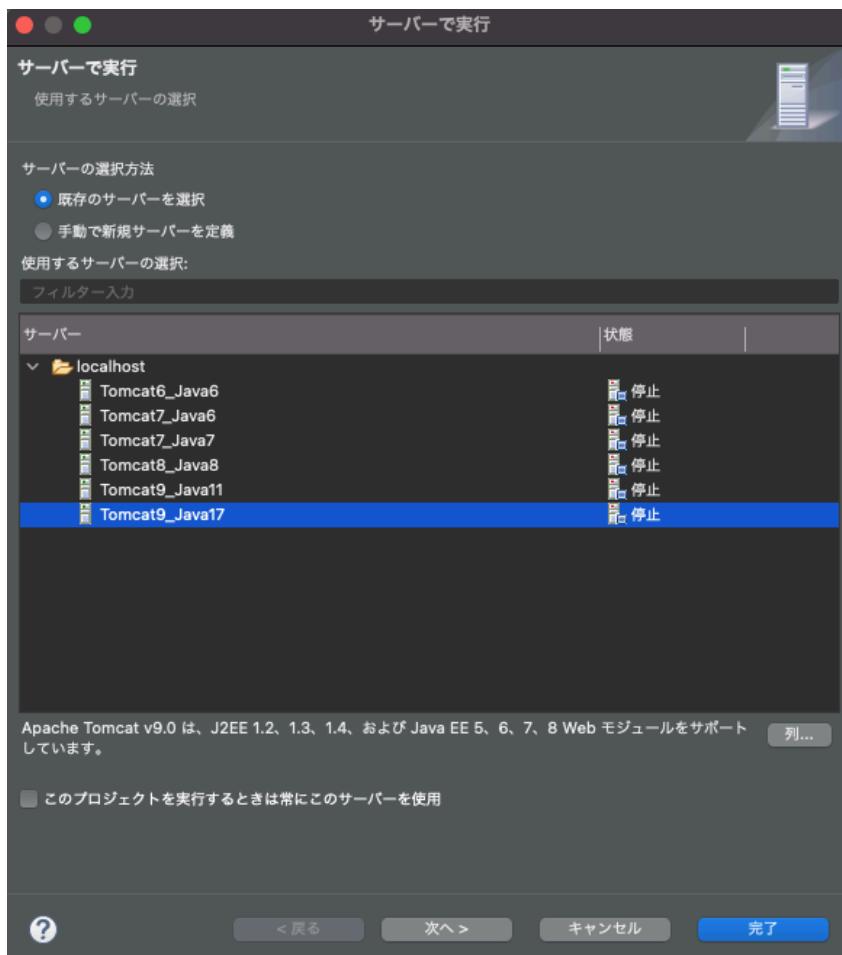
```
<%@ page language="java" contentType="text/html; charset=UTF-8"
pageEncoding="UTF-8"%>

<!DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta charset="UTF-8">
<title>Insert title here</title>
</head>
<body>
    <h1>Hello World! </h1>
</body>
</html>
```

1 : 対象のプロジェクトを右クリック→「実行」>「サーバーで実行」をクリック

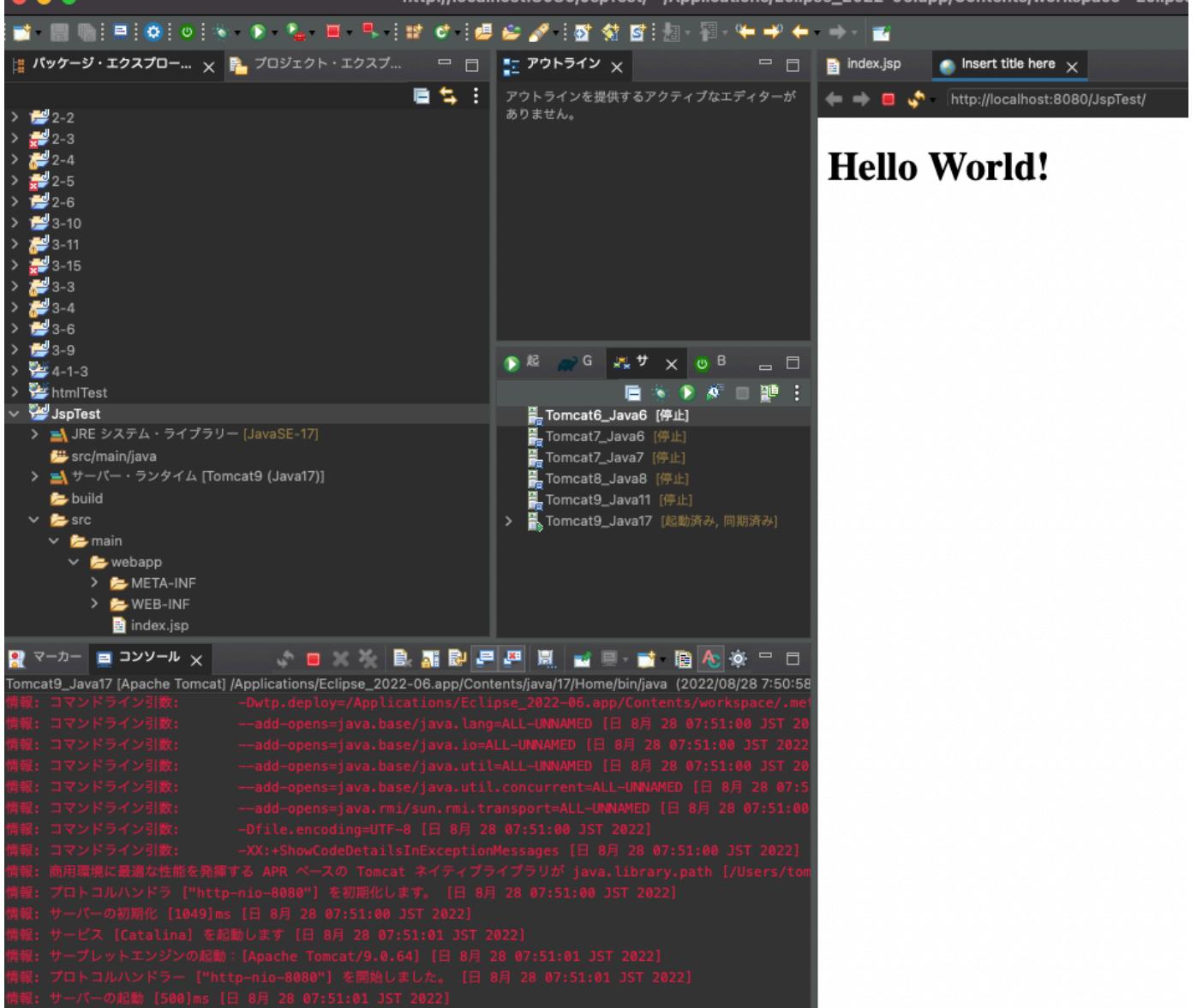
2 : サーバーのタイプを選択して「完了」をクリック

先ほど動的Webプロジェクトを作成する際、ターゲット・ランタイムで「TomCat9」を選択した為、
サーバーのタイプは「TomCat9」を選択します。



3 : 動的Webプロジェクトが実行され、JSPファイルの内容が出力されます。

http://localhost:8080/JspTest/-/Applications/Eclipse_2022-06.app/Contents/workspace - Eclipse



まとめ

JSPファイルを作成し実行するまでの手順をまとめましたが、

「プロジェクト作成」→「ファイル作成」の手順はこれまでと何も変わりません。

サーバー実行に関しても、TomCatの指定は必要ですが「javaアプリケーション」実行の手順と大差ありません。

とはいえた現場で開発を行う際や、アプリケーションを起動する際には必須の知識となります。

慣れてしまえば流れで全て行えるようになるので、

覚えるというよりも実際に作成→起動の手順を行って、体で覚えてしまうと良いでしょう。

課題

提出課題はありませんので、一通り学習が終わったら次の章に進んで下さい。

最終更新日時: 2024年 05月 27日(月曜日) 13:29